

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. **5**
2013.6

ニュース

東京紀尾井町キャンパス 3号棟が竣工

シリーズ 学生瓦版

食べる国際貢献活動／ファイヤードンスのプロ目指して

目次

- 02 [ニュース]
東京紀尾井町キャンパス
3号棟が竣工
- 04 [ニュース] 新しい城西人、巣立つ城西人
入学式／学位記授与式
- 06 [連載]
「高麗川プロジェクト」
- 07 同窓会の新会長
—— 鈴木 文雄さん

[学園ミニニュース]
- 08 [ニュース]
水田家から美人画が寄贈
[シリーズ]
浮世絵
- 09 [シリーズ]
学生瓦版
- 10 [ニュース]
ユニーク講義始まる
- 11 [エリア紹介]
鶴ヶ島市 城西大と基本協定を結ぶ
坂戸市 「坂戸よさこい」を開催します
東武線沿線情報 お得なきっぷで

題字：創業者 水田三喜男 先生

今号の
表紙

積極的な環境対策を
図っている紀尾井町キャン
パス3号棟。資源の効率
的利用や自然エネルギー
の活用によってCO₂の排出抑制をしてい
るほか、敷地や屋上の緑化によってヒート
アイランド現象の抑制もめざしている。



ニュース

東京紀尾井町キャ

キャンパス機能の強化などを目的に建設が進められていた東京紀尾井町キャンパス3号棟の竣工式が、2013年4月12日に行われました。

関係者招き完成祝う

近隣の方々や学校関係者、設計・建築関係者、本学と交流の深い国々の大使館関係者、政府・経済団体、企業関係者、マスコミなど招待客は約300人に上りました。

まず初めに、北側エントランスで水田宗子理事長、森本雍憲城西大学学長、柳澤伯夫城西国際大学学長、設計を担当した株式会社日建設計岡本社長、施工を担当した株式会社大林組野口副社長、両学の父母会・後援会会長、学生代表によるテープカットと定礎式が行われました。テープカットに先立ち、水田宗子理事長は「紀尾井町・平河町の皆様をはじめ、さまざまな関係者の皆様のお力添えにより、本日待望の竣工の日を迎えることができました。学生も入ってテープカットをすることができ、感無量です」とあいさつしました。引き続き、2階の教室で神事が執り行われ、出席者全員で3号棟の完成を祝い、今後の末永い安全を祈願しました。



竣工を祝ってテープ
カットが行われた

大石化石ギャラリーオープン

「化石から未来を創る」テーマに

キャンパス3号棟の竣工とともに、水田記念博物館「大石化石ギャラリー」もオープンしました。「化石から未来を創る」をテーマに公開し、学生や地域の子どもの知的好奇心を刺激し、その魅力を体験してもらうことにしています。

展示されるのは、かずさDNA研究所理事長で分子生物学、分子遺伝学者でもある大石道夫氏から提供を受けたブラジルやレバノンで採集された化石のほか、姉妹校でもある瀋陽師範大学遼寧古生物博物館の協力により制作された大型肉食恐竜の骨格模型レプリカです。

世界に2例しかないという古代ワニの全身化石など1億年前の白亜紀の水棲生物を

ンパス3号棟が竣工

機能強化 新たなスタート

紀尾井町キャンパスは3号棟の竣工により、新設された城西大学理学部数学科の応用数学コース、城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科と人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻、城西国際大学メディア学部映像芸術コースなど、新しいフィールドの課程が先進的に活用できるキャンパスとして新しくスタートしました。

3号棟は、延べ床面積が約7700平方メートル、地下1階地上5階建てで、約250人収容の大教室をはじめ中教室や小教室が整備されているとともに、最上階の5階には同時通訳ブースを備えた国際会議場も設けられています。同会議場の前には広々とした屋外テラスもあり、会議の合間に四季折々の植栽に囲まれて憩いの一時を過ごすことができるようになっています。

また、この建物は災害に対する備えも充実しており、十分な耐震性能をもっていることはもちろん自家発電装置等も装備し、万一の事故や災害の際には、学生や教職員はもとより近隣住民の避難の際に必要なさまざまな災害救援物資を収納する災害備蓄倉庫も完備されています。

野外テラス

国際会議場

中心にした約300点の収蔵品のうち、今回は約80点を展示しています。魚類の進化史、過去の温室地球と現在の温暖化現象との比較考察など、タイムカプセルとしての化石が持つ不思議と魅力に迫る展示となっています。

本学では、この化石ギャラリーを通して国際教育連携の促進だけでなく、子どもたちが科学教育について知的興味を持てるように展示内

容はもちろん、IT学習、ワークショップなど工夫をこらして展開していく予定です。



ギャラリー受付



世界に2例しかない古代ワニの全身化石

新しい城西人、 巣立つ城西人

今年の春もまた、城西大学は仲間を送り出し、そして新しい仲間を迎えました。入学式と学位記授与式の様子をご紹介します。

2013.4.4
入学式

「キャンパスは 自分育てる道場」

——水田理事長

晴天の下、例年になく早く咲いた桜の花びらが舞う坂戸キャンパスで2013年4月4日、平成25年度入学式が執り行われました。新たに城西の仲間となった2260人が期待に胸膨らませて入学式に臨みました。水田宗子理事長は式辞の冒頭で、東日本大震災後に創設した緊急特別支援制度によって今年も被災地の卒業生が巣立っていったことを紹介。「学問による人間形成」という建学の精神や紀尾井町キャンパスに新たに3号棟が竣工すること、地域社会との共同教育プログラムが充実・進展していることなどに触れました。

その上で、「キャンパスは、皆さんがさまざまな人との出会いを経験し、学ぶことを通じて知力と精神力と体力を養い、大きな人間力へと自分を育てていく、一人ひとりの道場です。このかけがえない歳月を通じて、社会人として基礎力を培い、自分のキャリアへの道を切り開く準備をしてください」と呼びかけました。

また、森本雍憲学長は今年に短期大学が創立30年、薬学部が創立40年、2015年には大学が創立50年を迎えることに触れ、「新入生の皆さんには、本学の伝統の継承者の一翼を担っていただきたい。このような節目の中、国および社会の将来を担う有意な人材になるため、在学中、いろいろなことを自ら積極的に学んでほしい」と訴えました。

これに対し新入生を代表して薬学部薬学科の増田佳記さんと短期大学ビジネス総合学科の中村美里さんが、「新たな門出に身の引き締まる思いです」などと語り、夢や希望に向かって学生生活を充実したものとすることを誓いました。



式辞を述べる水田理事長



誓いの言葉を述べる増田佳記さん



2013.3.19
学位記授与式

1743人 城西巣立つ

平成24年度学位記授与式(及び卒業証書授与式・修了証書授与式)が2013年3月19日、坂戸キャンパス総合体育館で行われました。この日、城西を巣立った卒業生は1743人で、創立以来からの卒業生総数は7万3126人になりました。式典では、学位記や証書が授与されるとともに、学業やスポーツにおいて特に素晴らしい活躍をしてきた学生たちの代表が、特別表彰を受けました。

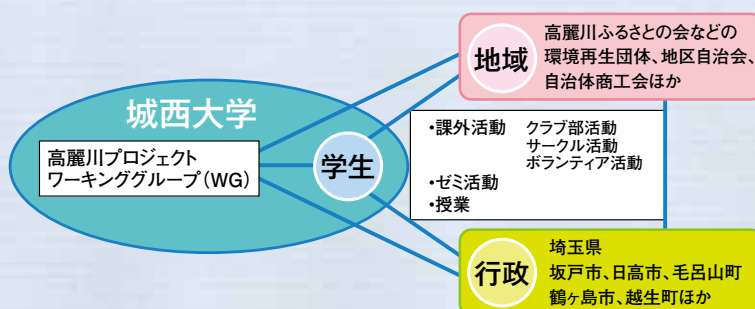
建学の精神である「学問による人間形成」を心に学生生活を送ってきた卒業生たちは晴れ晴れとした表情で式典に臨み、水田宗子理事長や森本雍憲学長、来賓や多くの関係者から、温かい励ましの言葉を受けました。水田理事長は式辞で、キャンパスの施設改善と安全強化、スポーツ活動環境の改善、大学アーカイヴの充実、短期大学創立30年を記念したガーデンの建設、さらなる自然科学領域の推進などによって未来志向の確かな大学として2015年の創立50周年を迎えたいと語り、卒業生に「これからの日本社会が、若者にとっても高齢者にとっても住みよく活気のある社会になるように、全身全霊で仕事に人生にあたってください」と呼びかけました。



森本学長から学位記を受ける卒業生代表

連載 「高麗川プロジェクト」展開

城西大学は、高麗川をもっときれいにし、豊かな自然環境をつくりあげるために「高麗川プロジェクト」をスタートさせました。こうした城西大学の活動と、行政の再生への取り組みの融合について報告いたします。



「川のまると再生プロジェクト」

本年3月、坂戸市が、城西大学と高麗川ふるさとの会とともに申請していた、埼玉県の補助事業である「川のまると再生プロジェクト」に採択されました。その活動を進め

るため、「第1回高麗川まると再生プロジェクト坂戸市部会」が5月15日、坂戸市立大家公民館で開かれました。行政側からは埼玉県の齋藤光紀・川越比企地域振興センター地域振興担当部長、坂戸市の廣澤隆夫・都市整備部長らが出席。また地元からは、三浦輝夫・高麗川ふるさとの会会長、

吉川義治・四日市場区長ら、本学からは白幡晶・副学長が出席しました。同部会の設置について「高麗川の地域特性を生かし自然と調和し地域住民に親しまれる川として上流から下流までまると再生することについて、坂戸市域において取り組むべき内容を検討する」との趣旨説明がありました。



高麗川周辺地図(坂戸市提供)

地域の課題に向き合い学生成長

城西大学では、これまで坂戸市主催の「清流高麗川ウォーキング」への運動部・学生有志の協力、現代政策学部による高麗川周辺にある休耕地を利用したヒマワリや



坂戸キャンパスと高麗川

米の栽培、経営学部による大学周辺クリーンキャンペーンの実施など、地域連携・地域活性化を目指した高麗川に関わる活動を行ってきました。清掃ボランティアでは、学生会や部・サークル・ゼミ単位での参加だけでなく、個人の参加者も多数集まっています。

同部会で白幡副学長は、こうした城西大学の「実績」を踏まえながら「地域の課題に向き合い取り組んでいく。実は、その課題こそ大学の教育資源でもあります。たとえば休耕地の活用をお手伝いした学生を見ると、その成長ぶりがわかります。大学としても、地域を学生とともに考える機会を大切にしたいと思います」と述べました。

出席者からは「遊歩道整備を進め、多くの市民が集まり楽しめる“にぎわいの場”に、自然が豊かな“安らぎの場”に、というコンセプトをどう両立させていくのか」、「雑草が生い茂っている場所が見受けられ、そこが不法投棄の現場になっている」、「洪水が起きないように河川管理をしっかり維持しながらプロジェクトを進めていくのが基本だ」などの意見が出されました。

今後は、坂戸市のほか日高市とも連携が進められる予定です。

■ 本プロジェクトに関する問い合わせ先

城西大学「高麗川プロジェクト」事務局
Tel : 049-271-7712
Fax : 049-271-7947

同窓会の新会長

鈴木 文雄さん



母校の発展 お手伝いしたい

6期12年間にわたり会長をつとめた佐藤鉄也さんの後任として、6月、新会長に鈴木文雄さん(65)が就任しました。鈴木さんは1971年、経済学部経済学科卒業

の3期生。学生時代から創立者の水田三喜男先生を慕い、卒業後、すぐに職員となり、現在、学校法人城西大学法人本部入試・広報センター事務部長をつとめています。鈴木新会長から今後の同窓会の取り組みなどを聞きました。

城西大学は1965年に創立され、間もなく50周年を迎えます。同窓会も1970年12月に設立され、大学の発展を見守ってきました。当時の同窓生は、経済学部、理学部の1期生を合わせ、約380人。その数はいまや約7万3000人となりました。同窓生は、この力を結集して母校の発展、名声高揚のお手伝いをしたいと思っています。

まず、創立50周年に向けて、同窓生一丸となって5億円の寄付

を集めたい、という目標を掲げています。これまで同窓会は、男・女駅伝部など運動部への応援・同窓会奨学制度を設立し、学生が勉学・スポーツに打ち込めるような大学にしようと、ささやかながら努力してきました。今後は、会則の見直し、役員の若返り、各支部の活性化といった改革を進めながら、地域社会との交流深化も実現させていきます。

水田三喜男先生は「学問による人間形成」を建学の精神に掲げました。先生と数次、お会いできる機会がありました。脳裏に残っていることは「自慢しない。謙虚であれ」という先生の姿勢・言葉です。また、水田清子・前名誉理事長には「心の細やかさ」を、水田宗子理事長には「日本文化を大切にすることの意義について」教えられました。いずれも建学の精神に通じるものです。

学生のみなさんには、この精神とともに未知の世界、分野を切り開く「開拓の心」を持って学生生活を送ってほしいと思います。同窓会でもできる限りアシストしていきます。

学園ミニニュース

オープンキャンパス始まる 今年もオープンキャンパスが5月18日から始まりました。この日は、多くの高校生や保護者が見学に来ました。参加者たちはまず、受付で資料や食券、シャープペンシルとノートの記念品を受け取り、写真、地図を見ながら模擬授業を見学したり、学生による相談コーナーを訪れたりしました。保護者説明会や入試説明会ではメモをとりながら熱心に話に聞き入る参加者の姿がありました。オープンキャンパスはこの日を含め9月29日まで計8回行われます。

過去最多の43人が受講中 中高齢者の健康づくりをサポートする城西健康市民大学は今年度、過去最多の43人の受講者でスタートしました。今年度で7回目。授業は土曜日の月2回が基本で、秋のハイキングを含めた計30講座。管理栄養士の資格を持つ大学院生が受講生の身体測定や食習慣を調べる手伝いをしたほか、総合体育館では男子駅伝部の学生が体力測定をサポートしました。全日程のうち3分の2以上出席した受講生に修了証書が授与され、さらに2年間の受講期間中に所定の授業を聴講することによって、健康づくりの知識と技能を極めたマイスターとして認定されます。



危険物取扱者13人が合格 理学部化学科の卒業生は、消防法で定める危険物(薬品)を取り扱う機会が多いため、化学科では数年前から授業などで危険物取扱者国家試験を奨励しています。昨年度も13人の学生が試験に合格しました。内訳は、消防法で定められているすべての危険物の取り扱いとその保安監督者である甲種危険物取扱者が11人、免状で指定されている特定の危険物を取り扱うことのできる乙種危険物取扱者が2人。甲種には女性2人が含まれています。

ニュース

水田家から美人画が寄贈

清方らの作品3点

水田家から新たに美人画3点が大学に寄贈され、入学式当日、水田美術館で公開されました。

寄贈されたのは、伊東深水(1898-1972年)の「春の夕暮」、鐔木清方(1878-1972年)の「富士額」、上村松園(1875-1949年)の「美人納涼図」。

清方は浮世絵の伝統を受け継ぎ、失われつつある江戸情緒を細やかに再現しました。東京の下町で育った清方は、挿絵画家として出発し、情緒的で文学性に富んだ女性像を描き、画壇での地位を築きました。東の美人画の大家・清方に対し、上村松園は京都画壇を代表する美人画家です。四条派の流れをくみつつ、浮世絵や伝統芸能、古典文学に親しみ、市井の人々だけでなく、物語や謡曲に題材をとり、清明で格調高い女性像を描きました。そして、清方に学んだ伊東深水は、豊かな色彩感覚と鋭い感性で同時代の風俗をとらえた作品を描き、高く評価されています。

楚々として清らかな女性美を描く清方、凛とした優雅な女性像を示す松園、個性ある現代的な女性像を求めた深水——近代的な写実を取り入れつつも、それぞれが理想とする美人画を追求しています。



美人画を鑑賞する水田理事長

3点のうち伊東深水
「春の夕暮」

シリーズ

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえぬ歴史の懐しさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、活き活き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『夏姿美人図』 吉原真龍

団扇^{うちわ}を手にした女性が、夕顔文様が映える淡い色の夏衣^{つみ}の褌を持ち、ゆるりと歩を進めている。薄衣から透けて見える白い腕や赤い襦袢^{じゅばん}、下唇にひかれた笹紅が艶めかしい。しかし、丸顔に小さな造作でまとめられた人形のような顔の表現によって上品さを保っている。

筆勢のある衣紋線と精緻な筆運びの濃艶

な面貌表現とが対照的で、髪飾りや襦袢の紅色がアクセントとなっている。

描かれた時代は江戸の三大改革の一つ、天保改革が行われた頃。老中・水野忠邦は、風俗肅正や奢侈^{しやうし}禁止を図り、諸問屋を解散、物価値下げを命じ、上知令などを発するなど幕政再建に努めた。しかし、その方法が過激すぎて失敗に終わり、失脚した。



絹本着色(幅)天保3弘化1(1830)48年頃

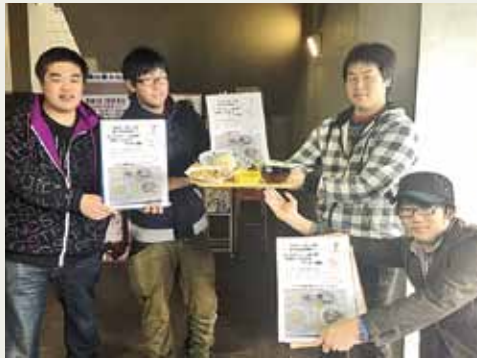
学生瓦版

城西大学広報委員会の学生たちが、自分たちの五感を駆使して学内の情報を発掘し、学生の目線で捉えて取材した記事をシリーズで紹介します。

TFTサークル 食べる国際貢献活動

TFT(TABLE FOR TWO=二人の食卓)とは、世界人口70億人のうち飢餓人口10億人、生活習慣病人口10億人という二つの問題を同時に解決することができるNPO法人の社会貢献活動のこと。寄付した先の子供たちの栄養バランスの改善や就学率の向上に役立っている。この活動には多くの企業や大学が参加している。

城西大学のTFTサークルのメンバーは現在12人。学生がカロリーを控えた栄養バランスの良いメニューを考え、食堂と



TFTサークルのメンバーと料理

協力して旬の食材を使った「TFTランチ」として定期的に販売している。この一食の代金の

うち20円をアフリカに寄付する仕組みだ。20円はアフリカの給食一食分に相当する。食堂で昼食を食べるだけで簡単にボランティア活動に参加できる。城西大学では1年間で1000食以上販売することができたという。販売開始後すぐに売り切れてしまったランチもある。販売に至るまで試食会を何度か行い、毎回2週間から3週間かけて学生が食べたいようなメニューを研究している。



メニューの一例

メンバーは「自分たちが当たり前で食べている食事はアフリカでは当たり前で食べることができない。食べ物を残す先進国の現状とアフリカの飢餓に苦しむ現状とを比べてみて普段の食事から一食一食を大切に食べてもらいたい。身近に参加できるボランティア活動なので、興味があったら一緒に活動してほしい」と呼びかけている。

詳細は城西大学広報センターまでご連絡ください。なお、TABLE FOR TWO公式サイトは <http://jp.tablefor2.org/> (取材:広報委員会2年・中原雅人、貝沼大輔)

ファイヤーダンスのプロ目指して 松島憂弥さん(経営学部2年)

火の踊り「ファイヤーダンス」でプロを目指しているのが、経営学部2年生の松島憂弥さんだ。松島さんは「将来は世界チャンピオンになり、ファイヤーダンスで城西大学の知名度を上げたい」と夢を膨らませている。

松島さんがファイヤーダンスに出会ったのは小学1年生の時。フラガールで有名な福島県のホテルスパリゾートで、ハワイアンズという団体の演舞を見てその勇壮さとカッコ良さにとりこ



迫真の演舞

になった。中学生の頃には、灯油で濡らしたタオルを棒に巻きつけて河川敷で練習。高校卒業と同時に夢だったハワイアンズに入団しようとしたが、東日本大震災や原発事故の影響で断念した。

それでも大学で時間と場所を見つけ、一人練習に励んだ。そんな松島さんに転機が訪れた。大学による町づくりという講義で町を活性化さ

せるプロジェクトが行われ、坂戸市でファイヤーダンスを披露することになったからだ。そこでの演技が評価され、他の団体からも出演依頼があり活動の場が広がることになった。

本番では目に灯油が入ったり、灯油で棒が滑りやすくなったりと大変だという。松島さんに本番で心がけていることを聞いたところ、「パフォーマーは技術だけではなく、観客に訴えかけるような表現力が重要」という答えが返ってきた。

7月14日に坂戸市のサンロード駐車場で行われる七夕祭りに出演予定のほか、8月3日にも東京都豊島区のイベントに出演予定。YouTubeで「ファイヤーダンス坂戸」で検索すると松島さんの演舞が視聴できる。



(取材:広報委員会2年・丹波瞭、須田達也)

ニュース

ユニーク講義始まる

現代政策学部と経営学部で行われている警察やメディアと連携した講義を紹介します

現代政策学部 社会安全政策論

2013.4.9

県警本部長が教壇に

警察活動を理解してもらおうと埼玉県警の幹部が講師を務める「社会安全政策論」の講義が4月9日、現代政策学部で始まり、金山泰介本部長が初回の授業を行いました。

治安行政に詳しい金山本部長が「政策」の名がついた同学部での講義を希望し、県内では初めての県警による講義が実現しました。

金山本部長は「社会の安全を守るための行政とは」と題したこの日の講義で、日本の警察について「交通取り締まりから情報活動まで幅広い活動をしているのは世界でも珍しい」などと紹介。「犯罪者を捕まえることを必死になってやってきたが、それだけでは犯罪は減らない」などと語り、犯罪の予防や被害者支援に力を入れることで犯罪に強い社会を実現することの必要性を訴えました。公務員志望の多い同学部の2学年以上の約100人が熱心に



金山泰介本部長による県警講義

聞き入っていました。

治安行政は、外交や防衛と並んで重要な国家の基本機能でありながら、大学ではあまり論じられてこなかった分野でした。しかし、平成に入って犯罪の増加によって治安に対する国民の関心が高まるにつれ、欧米における研究の成果が日本にも盛んに紹介されるようになりました。

講義は、警務部長や警備部長、生活安全指導室長、国際テロリズム対策室長らが「犯罪被害者と犯罪予防の理論」「家庭の安全とDV、児童虐待、ストーカー」「サイバー空間の安全」「テロの現状と対策」などをテーマに7月まで計14回行われます。

経営学部 毎日新聞連携講座

メディアとどうつき合うか

昨年から始まった経営学部の「メディア論」の前期講座が今年も4月からスタートしました。毎日新聞の協力で、各専門分野で活躍する論説委員や記者のほか、広告局の女性社員も登場し、情報社会の中で、どうメディアとつき合っていくかなどについて質疑応答を交えて行われます。

冒頭、担当の福島和伸・副学部長が「この科目は最近のニュースをはじめいろいろな話が盛り込まれている。しっかり勉強してほしい」と教室を埋めた約300人の学生に訴えました。

第1回目は、城島徹・「教育と新聞」推進本部委員で元ヨハネス



前期講座がスタート

ブルク支局長が「異文化理解と報道」と題して講義しました。紛争やエイズ禍が続くアフリカの現状について報告。そうした環境で、現地で活躍する日本人女性も紹介し、「海外だけでなく、日本でも身近な人々を理解するのがコミュニケーションの第一歩。アジアを知るためにいろんな所を訪ねたらいい。また、広島や長崎、被災地にも行ってほしい」と呼びかけました。

講義は7月まで毎週木曜日に行われ、7月18日は受講生が「ニュース時事能力検定」の模擬版に挑戦します。

スケジュール／第2回目以降のテーマは次の通り。

- 第2回目 「朝鮮半島情勢」
- 第3回目 「原発被害と福島」
- 第4回目 「震災と報道写真」
- 第5回目 「学生新聞とNIE」
- 第6回目 「ネット時代の表現術」
- 第7回目 「政治と政権」
- 第8回目 「真のスクープ記事とは」
- 第9回目 「ソーシャルメディアとは」
- 第10回目 「新聞と新媒体戦略」
- 第11回目 「皇室報道の読み方」
- 第12回目 「真実の中国報道」
- 第13回目 「新聞の広告とは」
- 第14回目 「芸能記事とは」

鶴ヶ島市

鶴ヶ島市とも基本協定を結ぶ

城 西大と鶴ヶ島市との相互連携協力に関する基本協定書の調印式が4月4日、清光会館で行われました。両者が活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展と、そのための人材育成に寄与することが目的で、同様の協定書の締結は、坂戸市(2008年6月)、毛呂山町(12年9月)、越生町(12年11月)に次いで4番目となりました。

調印式で水田宗子理事長は「48年前に大学ができてから、これまでさまざまな支援をいた

だいてきた。その上に立って包括的な提携を結ぶことによって住民と大学の交流を深めていきたいと思います」とあいさつしました。これに対し、藤縄善朗市長は「協定によって交流がさらにステップアップしていければと思います」と感謝の言葉を述べました。

また、藤縄市長はサフランによる町おこしの動きがあることを紹介し、「一緒になっていろいろな形にして発展させたい」と語ると、水田理事長も「(サフラン商品化の動きは)先見の明があります。大きな花を咲かせていければと思います」と応えました。推進母体の「鶴ヶ島サフラン・スーパーサポーターズ」の会長を務める白幡晶副学長も交えて、しばしサフラン談義に花を咲かせました。

入学式を挟んで、経営学部棟南の一角で行われた植樹式では八重桜の幼木に水田理事長や藤縄市長らが土をかけました。あいさつで水田理事長は「ここでお花見ができますよう楽しみに育てたいと思います」と抱負を述べました。



記念植樹をする水田理事長(右から2人目)や藤縄市長(同3人目)ら

坂戸市

今年も「坂戸よさこい」を開催します

関 東一の規模といわれる「坂戸よさこい」は今年第13回目を迎え、8月17日(土)、18日(日)の両日開催されます。

昨年は106チーム、約5200人の踊り子たちが、躍動感のある舞を披露し、来場した約21万人の観衆を魅了していました。

今年も、「応援しよう東日本!!」を合言葉に、被災地の応援をテーマとしたお祭りとして開催されます。当日は東北地方から多数の出店が予定されており、その地域の特産品などを販売します。また、

坂戸よさこいの人気キャラクター「さかっち」の関連グッズに新たに加わったぬいぐるみやマグカップなども販売します。

ぜひご来場いただき、「観て、食べて、踊って」坂戸よさこいのおもてなしをお楽しみください。



昨年も祭りを盛り上げた経営学部チームの踊り

東武線沿線情報

東武東上線を使って、お得なきっぷでお出かけください

東武東上線は3月16日から東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転を開始いたしました。東武東上線がさらに便利になり、乗り換えなしで自由が丘、横浜方面へお出かけいただくことが可能となりました。それに伴い、お得にお出かけしていただけるきっぷ「東上東急線トライアングルチケット」と「東上横浜ベイサイドきっぷ」の発売を開始いたしました!

「東上東急線トライアングルチケット」は、東急線の渋谷～自由が丘～二子玉川間のエリア(トライアングルエリア)で、お友達同士のお買い物や大切な人とおしゃれなカフェで楽しいひとときを過ごしたい方などに、ぜひオススメのきっぷです。

「東上横浜ベイサイドきっぷ」は、今まで東上線から横浜や元町・中華街等へのお出かけがしにくいと感じていた方にオススメしたい、お得にご利用いただけるきっぷです。

詳しくは、東上線池袋駅、朝霞駅～玉淀駅に置いてあるパンフレットまたは東武鉄道ホームページ(<http://www.tobu.co.jp/>)をご覧ください。



編集／学校法人城西大学 広報センター
発行／城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2013年6月発行

